発行：社団法人立川青年会議所　印刷：株式会社ハタ技術研究社
〒190-0012　立川市曙町2-38-5　立川ビジネスセンタービル12F
TEL.042-527-1001　FAX.042-527-6600　www.tachikawajc.or.jp

立川JC NEWS　7月4日 水曜日　2012年（平成24年）　号外

2013年度理事長決定

JCI 迎浩一朗君

社団法人立川青年会議所は四日、立川グランドホテルにて第一〇三回通常総会を開催し六月に実施された二〇一三年度理事長選挙に当選した迎浩一朗君（三十八歳／副理事長株式会社テイルウィンドシステム代表取締役）が、満場一致で二〇一三年度理事長に選出された。

【応援メッセージ】

迎浩一朗君、理事長就任おめでとうございます。迎君とは私が紹介者ということもあり公私に渡っておつき合いを頂いております。JCでも、迎君が入会した二〇〇六年に国立委員会の委員長を拝命していた私は「国立」の世界に彼を半ば強引に引き込み、その後どんど焼きの事務局長就任をきっかけに自治体協働初のくにたち市民討議会を開催するなど、理事としてしっかり結果を残して頂きました。そんな未知で無縁の世界を早期に悟り、ミッションを遂って退ける姿を目の当たりにし、将来素晴らしいリーダーになると思っておりました。そして、二〇一一年にはコンビでもあり、女房役の専務理事としてLOMの矢面に立ち、これも彼にとって未知な世界でありましたが華麗に職務を全うし、一年間しっかりと支えて頂きました。また、本業のシステムインテグレーターとしても立川市内は勿論のこと、広範囲に渡り、官庁や優良企業の実績を積み重ね、急成長を続ける会社の社長としても日々活躍しており、彼と一度でも運動を共にした人であれば、決断力・包容力を持ち合わせ人並みならぬ帝王ぶりを感じた事があるはずです。そんな彼の強いリーダーシップと実行力は記憶に新しく、誰もが認めるところであり、二〇一三年、立川JCの次世代を担うリーダーとして、大きな風を起こしてくれると私は確信しています。

がんばれ！第四十九代　迎浩一朗！！

第四十七代理事長　松浦　孝治

二〇一三年度第四十九代理事長のご就任、誠におめでとうございます。

迎君は入会以来、様々な要職を歴任されその時々の役割に於いて類稀なリーダーシップを発揮されて来られました。静岡から上京し、今日に至るまで社業の発展に全力で努め、正に地域に根ざすべくした企業としての成長をも遂げられております。

公私共に、その「親分肌」とも言えるリーダーとしての存在感や資質というものは、メンバー誰しもが認めるところではないでしょうか。LOMスタッフとしても、専務理事、副理事長を経験され、その中で培われた良きブレインにも囲まれ、歴史と伝統を重んじた新たな時代に則したLOMを築きあげる、そんな一年を創出していただけると確信致します。

どのような状況下においても弱音を吐くことなく、常に前を向いてメンバーを率いるつよく優しきリーダーとして必ずや更なる力強さをこの立川JCに齎してくれるでしょう。

五〇周年を目前に控えた二〇一三年度、迎理事長を先頭に、メンバー全員の総力を持って運動に邁進して頂く事を期待申し上げ、迎理事長ご就任の応援メッセージと致します。

第四十八代理事長　矢澤　貴光

【故（ふる）きを温（たず）ねて 新しきを知る】

～ 人づくり運動 ～

『立川ＪＣ四十八年の歴史』

時代の先駆者と呼ばれる偉人たちには、幾つかの共通項があると言われます。何れもそれぞれの時代に必要とされた資質であり、その時代だからこそ最大限に発揮することができた要素であったのだと思います。そしてそのどれにも共通していることは、すべては「人の力」と「未来を想う本気」によって成し遂げられたという点が挙げられます。これはＪＣにも置き換えることが出来ると感じています。

四十八年前、地域の、そして日本の未来を想って立ち上がった立川青年会議所。まさに時代の先駆者として、私欲を捨て、未来のために全てをかけて人と人との架け橋となりながら、今日まで牽引してこられた偉大なる先輩方。私は今、立川ＪＣの歴史と意味を改めて見つめ直しています。青年会議所は単年度制という全世界共通であり、また特有の制度を持つ組織です。この制度は多くの会員に多くの経験を積ませながら地域に役立つ人材を創出することに寄与してきました。一方で、時代が求め、社会が必要としていた残すべき事業までもが単年度制のもとに途絶えてしまった側面もあると感じています。目まぐるしく変化を遂げる時代の中にあっても、その形や方法は変われど、不変の理念をもって半世紀近くに渡る永い歴史を歩んできた立川ＪＣの偉大な価値、その価値に対して、今我々は更に深く考え、改めて学ぶべきであると強く感じています。

私なりに立川ＪＣ創設からの歴史に僭越ながら触れていくなかで、そこには時代のニーズを感じ取りながら、昨日よりも今日、今日よりも明日の地域、そして日本が良くなって欲しいと強く願う、純粋な先輩方の想いを痛感いたしました。

あと数年で我々は立川ＪＣ創設五〇年という大きな歴史の節目に立ち会うことになります。未来を創り、社会の先駆者となるべくして誕生した立川青年会議所の会員として、我々は今後この地域にどのような責務を負い、どのようにしてインパクトを与えることができるのでしょうか。そして何よりも、その人材足り得る自分たちになるためには、何が必要なのでしょうか。

『まちづくりの前に人ありき』

まずは魅力ある組織を構成するための【魅力ある人づくり】です。今後数年で現在の約半数に及ぶメンバーが卒業を迎えるなか、地域にとって必要とされる存在であり続けるためには、組織の魅力を語れる人材が非常に重要な要素になります。目の前の利に捉われ、人材育成を疎かにして反映した国や組織は過去の歴史を見ても存在しません。「まちづくりの前に人ありき」。このことを胸に多くの素晴らしいメンバーと共に五〇周年を迎えることをお約束します。

『歴史から学ぶ』

次に【歴史から学ぶ】ことの必要性です。時代は変われど、物事の本質は変わりません。これまで行われてきた全ての事業を見つめ直し、現代の形に進化させた「リバイバル事業」を柱に、四十八年間の実績と地域にかける想いを一年間かけて再検証し、再発信します。このことを通して「ＪＣだからできること」「ＪＣだからこそやるべきこと」が、現代の我々自身にも再確認することができるはずです。物事を比較するには、その根拠となる比較対象がなければなりません。それと同じくして、新しきを語るには、歴史から学ぶことが最も有効であり、必要不可欠の要素です。五〇年という節目を目前に、未来を考えるにあたっての根拠を学び、真のまちづくりをするための「人づくり運動」を進めながら積極的変化を創造する情熱溢れる集団を創って参ります。

私自身、自己犠牲を恐れることなく、皆さんの先頭に立ち、明日のために一生懸命頑張ります。一年間どうぞ宜しくお願い致します。

平成二十四年七月吉日

迎 浩一朗

【迎 浩一朗君のあゆみ】

一九九四年三月　静岡県立島田高等学校　卒業
一九九八年一〇月　日本オリジナルシステム株式会社　入社
二〇〇三年一二月　日本オリジナルシステム株式会社　退職
二〇〇四年二月　株式会社テイルウィンドシステム　設立
代表取締役に就任　現在に至る

【青年会議所略歴】

二〇〇六年　入会
広報総務委員会
二〇〇七年　国立委員会　幹事
人財育成委員会　委員
東京ブロック協議会　教育政策委員会　委員
二〇〇八年　国立委員会　委員長
二〇〇九年　会員交流委員会　委員
二〇一〇年　拡大委員会　委員長
二〇一一年　専務理事
東京ブロック協議会　二十四ＬＯＭ連絡会議　議員
二〇一二年　副理事長
東京ブロック協議会　東京ユニット確立委員会　委員